

令和4年度 第1回多賀城市総合教育会議 会議録

- 1 日時 令和5年1月25日(水) 15:00~16:00
- 2 場所 多賀城市役所3階 第二委員会室
- 3 出席した構成員
市長 深谷 晃祐
教育長 麻生川 敦
委員 樋渡 奈奈子
委員 林 幹字
委員 小野 聡子
委員 高田 彩
- 4 欠席した構成員 なし
- 5 事務局職員
企画経営部長、企画経営部次長、企画課長補佐、企画課 佐藤 紘一
- 6 その他出席した職員
教育部長、教育委員会事務局次長、学校教育監、生涯学習課長、文化財課長、教育総務課課長補佐、教育総務課佐々木 多恵子
- 7 協議・調整事項
 - (1) 令和5年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1
 - (2) 地域とともにある学校づくりについて 資料2
 - (3) 区域別就学児童・生徒数について 資料3
 - (4) 多賀城創建1300年記念事業について 資料4
- 8 主な発言内容

※要点筆記。職員は原則役職名

議事(1) 令和5年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1

▽時間の関係から意見交換割愛

議事(2) 地域とともにある学校づくりについて 資料2

▽（市長）この事業については、学校と地域が共に子どもたちを育てるということを目指すものとなっている。地域の皆さんには私が応援団となって、学校の皆さんには教育委員の皆さんが応援団となって、タッグを組んで進めたいと思っていることから、本日は議題とした。

▽（樋渡委員）難しい事業である。理想的な構想であると思う。学校運営協議会では、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員としても参画と記載がある。その点について、補足で説明をいただきたい。

→（学校教育監）まず、従前あった学校支援地域本部が地域学校協働本部というものにステップアップしたことを御承知いただきたい。地域学校協働活動推進員の方々は、これまでも、これらの本部において様々な協力をいただいていた。多賀城市の学校運営協議会では、地域学校協働活動推進員の方々に必ず入っていただけるように調整を行っている。これは、学校運営協議会と地域学校協働本部が地

域とともにある学校づくりの両輪としての位置づけになっているためである。

- （樋渡委員）2つの会の関連性を深めると考えていいのか。
- （学校教育監）お見込みのとおりである。
- （林委員）学校教育監のお話のとおりで、私は従前から地域学校協働活動推進員となっており、その関係から、令和4年度からは学校運営協議会準備会の委員として選ばれ、双方において活動している。
- （小野委員）担当の学校があるのか。
- （学校教育監）学校運営協議会は、学校ごとに任命することとなる。各学校の学校運営協議会の委員について、地域学校協働活動推進員に2名程度はいただくと調整をしている。
- （生涯学習課長）3ページの図をみてほしい。図右側の地域学校協働本部には、地域学校協働活動を推進、コーディネートする役目の方として、地域学校協働活動推進員が市に17名、既に委嘱している。地域学校協働活動推進員の対象範囲は市域全部となり、直接的な担当の学校はない。しかし、地域に住んでいる方なので、お住まいの地域が活動の拠点となっており、主として活動している学校がある。図左側の学校運営協議会をつくる際には、学校長からこの地域に住んでいる地域学校協働活動推進員に学校運営協議会委員就任を依頼するよう、現在調整中となる。学校運営協議会委員と地域学校協働本部構成員としては、それぞれの役割に沿ってそれぞれ別々な活動を担っているが、地域学校協働活動推進員に学校運営協議会委員就任いただくことで、地域の活動実態を学校運営協議会内で話をしたり、学校側からの地域の方にお手伝いいただきたいことを聞き取って地域に持ち帰ったりと、学校と地域との橋渡し役となっただけを期待している。
- （小野委員）承知した。
- （樋渡委員）学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員がいる。多賀城市における今回の取組としては、どちらに就任するのが順番として先になるのか。
- （学校教育監）地域学校協働本部は既に先行して実施されており、地域学校協働活動推進員は既に就任いただいている。学校運営協議会は、令和5年度からはじまるころである。学校運営協議会委員については、学校長から地域の方に依頼することとなる。地域の方の中には、自治会・町内会長や地元企業の方、地域学校協働活動推進員がいる、という形である。
- ▽（小野委員）林委員が、今、学校運営協議会準備委員会で活動している内容を教えていただけないか。
- （林委員）まだ準備委員会となるため、今は準備をしているのみである。これまで2回参加している。上手に運営されることで、学校運営協議会には、可能性があると感じている。準備委員会は現在8名だが、本番の委員会では15人程度まで増やすときいている。学校がお手伝いをお願いしたいと思う方々が学校運営協議会委員となるので、学校運営協議会内で学校から協力依頼があれば、それぞれの実際に支援をしている団体の方々に一回で直接お話が通じ、スムーズに意思疎通が図られるという点は、メリットを感じている。例えば、学校の防災訓練について話し合いとなった場合に、学校運営協議会準備委員会のメンバーに消防団の方が入っており、学校の防災訓練への地域の協力という点について、非常にスムーズに実現に向かう。私としては、学校が仲間を増やす取組という認識である。
- （小野委員）現在の学校運営協議会準備委員会の委員にも、地域学校協働活動推進員の方がいるということか。
- （林委員）地域学校協働活動推進員で学校運営協議会準備委員会の委員になっている方は、私が担当する学校だと、私ともう一人そういった方がいる。
- （教育長）地域学校協働活動推進員は、既に地域学校協働活動推進員として活動されている方となる。

学校運営協議会は、現在準備会なので、既に地域学校協働活動推進員として活動されている方を含めて指名をされて、今準備をさせていただいている。学校運営協議会には、地域学校協働活動推進員だけではなくて、学校の地域の方々がやっている。現在準備会となるが、山王小学校区においては、令和4年度に実施した防災訓練においても、地域の方に協力いただきながら、実施したところである。

→（林委員）山王小学校における避難場所は原則垂直避難ということになるが、様々なことを勘案して、今回は、樋ノ口大橋の上に避難するというのを、学校と地域とで連携して実施したところである。学校運営協議会には保護者、地域住民、町内会長といろんな方がおり、連携をとっていけるようになる見込みである。

→（小野委員）地域学校協働活動推進員は学校運営協議会において核となるということではなく、一緒になって行うということによいか。

→（教育長）お見込みのとおりである。

▽（小野委員）学校運営協議会の役割にある「任免に関する意見」というのはどこまでになるのか。

→（学校教育監）学校運営の基本方針を実現するために、教職員の男女比、年齢構成や特色ある教育のための体制整備というところになる。例えば、英語の得意な先生を増やして欲しいといった意見が可能となる。意見については、学校から市教育委員会を経由し、県の人事担当部署に伝えるという形になる。賞罰などは意見の中としては想定していない。

→（小野委員）むかし、県南で学校運営協議会がはじまった際に、任免にまで意見されるということに現場から忌諱するような意見もあった。そのため、想定を伺いたかった。全国的に学校運営協議会が広がっているため、問題となっていないとは思いますが、確認をしたところである。

→（市長）資料に記載があるとおり教員の懲戒処分等は含まないものであるため、御理解いただきたい。一方で、保護者からみた先生の姿を伝える機会については、子どもたちにとってプラスになるところもあるので、場の設定は必要かもしれない。

→（林委員）学校運営協議会を、そういった機会としていいものなのか。準備会に参加している自分としても葛藤がある。

→（教育長）学校運営協議会については、具体的な先生の話ではなく、特性に合った指導の研修をして欲しいといった意見を想定している。ここでの任用については、八幡小学校では、地元にある鹿踊りがあるので、詳しい先生を任用して欲しいなどそういう意見を想定している。学校運営協議会以外に、学校運営協議会委員以外の方もはいつて、熟議をする場という、具体的な先生のことなど学校のことを話す場をつくることになっている。その場においては、個別具体的な先生の話できるようになる予定である。

→（市長）まずは、理想を掲げ、進めていくということで、御理解いただきたい。

▽（小野委員）私は、自分住んでいる学区の学校に地域住民として関わっていない状況にある。住民としてどうやって関わることができるのかというのを、住民に対して周知していくのかを知りたい。地域のチカラを学校に使っていただくための入り口について、どう考えているのか教えて欲しい。

→（教育長）学校ごとの学校長の方針がある。その方針を進めるために、まず学校でがんばること。その上で、地域で助けてもらうという形が理想と考えている。例えば、私案でしかまだないのだが、学力向上については、乳幼児期の言葉かけが大切という研究結果が出ており、言葉かけの言葉の数が言語発達に影響があるということが言われている。言葉かけとして最も良い方法が読み聞かせであると思っている。単なる読み聞かせを行うだけでなく、読み聞かせを行いながら対話をすると、更に発

達に良い影響があるという、他国の実験結果もあるようである。学校では乳幼児期に対して行うことが難しいところがあるため、そういった読み聞かせを地域や保護者に広めてもらえるように、学校長から学校運営協議会を通してお願いするということも可能ではないかと考えている。生涯学習課ではブックスタートを行っているところであるが、そのブックスタートの機会に地域の人に集ってもらい、先ほどの言葉かけの話を地域の方にするなど、いろいろな展開もあるのではないかと考えている。今のお話の内容を全て実行できるかについては、現時点では、分からないところではあるが、このような展開の仕方を期待している。

議事(3) 区域別就学児童・生徒数について 資料3

▽(市長)本市においても人口減少・少子化傾向は続いており、全体としての児童生徒数は減少する見込みである。一方で、社会増減の影響で主に現在は西部地区の児童・生徒数に増加がみられる。今回は、市長部局で予算調整を行い、ハード整備により対応する予定としているが、今後の西部地区の土地や東北学院大跡地の利活用の状況を見据えると、学区見直しなどのソフトの取組も進める必要があると考えております。こうしたソフトハード両輪となって進める方向性について、是非教育委員と共有したく、本日議題としたところである。

▽(小野委員)私が思っていたよりも児童・生徒数が減らないものだなと思った。10年くらい前の予測と今の実態には齟齬はあるか。

→(教育総務課長)自然増減については、想定どおり。社会増減、特に山王小学校区において大きく増加することについて、見込んでいなかった。

→(市長)まずは、こういった現状にあるということ共有させていただきたい。

▽(林委員)児童・生徒数の推移については、承知した。一方で、この数値を基にということになるが、学区割をした方がいい、校舎を増築した方がいいという議論については、今後検討していくということか。

→(市長)今後の展開については、教育委員の皆さんにも諮りながら、教育委員会事務局内で議論が進むものと思っている。

→(林委員)単純化すると、山王小学校区の児童数が多いため、学区見直しを行うということになるやに思うが。

→(市長)今回は、山王小学校のハード整備によって解消を図ることとなったが、その前段として、林委員のこのような議論も行った。児童数の社会増が起きている場所をより詳細にみていった際に、西部地区でも新田、山王、南宮といった近隣小学校がない地域で増加傾向が見込まれることがわかった。高橋地区など別な学校の通学区域に隣接している地区であれば、学区見直しによる対応も調整ができたところであるが、今回は、スケジュール的なところもあり、ハード整備によって解消を行うこととした。

→(林委員)増加傾向にある区域がより西部であることは理解したが、別な学校の通学区域に隣接している地区、例えば高橋地区などを今回学区見直しすることで、少しでも解消しようということも可能だったのではないかと思うがいかがか。

→(市長)高橋地区から通学する児童及び現在住んでいる未就学児童の数よりも、より西部において増加する見込み児童数の方が多いということも分かっている。状況も刻々と変わる中で、対応可能な方策を今回は採用したということになる。教育委員の皆さんに把握いただきたい数字の部分まずは今回共有させていただいた。

▽（小野委員）高崎中学校の1人当たりの校舎面積は、前から小さかったのか伺いたい。市内では比較的大きな校舎だったように感じていたが、一人当たりの面積としてみると、意外と小さいということに驚いた。

→（教育総務課長）細かい数字は今手持ちにないため、そこは御容赦いただきたい。学校を整備するに当たっては、生徒の数や見込み数をもとに整備できる面積が国の基準によって決まっている。そのため、建設段階では、見込まれる生徒数から必要面積を算出し、それを満たす面積で整備を行っているはずである。

議事(4) 多賀城創建1300年記念事業について 資料4

▽時間の関係から意見交換割愛

9 その他の発言内容

▽時間の関係からその他意見交換割愛

以上